

I はじめに

筆者（1982）は、三重大学教育学部における教師教育の現状に対して学生がどのように受けとめ、評価しているかを知るために、昭和53年度の卒業生を対象に調査を実施した。232名（回答率約65%）の回答から、学生は学部教育に対して次のような意見や不満を持っていることが明らかにされた。

- ① 教員養成学部でありながら、教育実践が軽視されているという認識とそのことに対する強い不満。
- ② 教育実践とは関連性の低い授業担当者自身の専門性（研究）を優先した授業内容への不満。
- ③ 教官からの一方的、画一的な授業形態や教授法の工夫改善に対する教官側の努力不足、無関心さへの不満。
- ④ 教育実践に即した教科専門関係の授業開講と教職専門関係の授業充実に対する要望。

学部の教育に対して、「学部の授業は、理論中心で、教育実践との結びつきが希薄だ」に対して88%の学生が肯定的回答をし、「学部のカリキュラムは散漫としすぎて教員養成大学のカリキュラムとしてのユニーク性に欠ける」には76%の肯定的回答が得られた。また、授業担当者に対しては、「教官は視聴覚機器を取り入れたり、小中学校の授業参観を取り入れたり、討論形式を取り入れたりというように、授業方法や内容について工夫してほしい」に対して93%もの肯定的回答が得られた。教職に就くことをめざして入学したものの、教育に無関心・無頓着な教官による授業、研究中心とした教育実践には無関係な授業に失望し、学習意欲を喪失したまま4年間の学生生活を終えようとする多くの学生の存在が、この調査によって浮かび上がってきた。また、この調査結果は、大学教育がかってのエリート教育の時代からマス教育の時代に突入した今日、「学生が理解できないのは学生が勉学を怠っているからだ」といった伝統的な学生観や教育観に対する再検討が求められていることを示唆するものといえよう。

この「三重大学の教員養成の現状に対する学生の評価」に関する調査（1882）の実施は、筆者自身の大学における教育実践のあり方を反省し、筆者の担当する授業をより魅力的なものに改善する大きな転機となった。本報告は、過去10年以上にわたって筆者が行ってきた「学生からフィードバック情報」を取り入れた授業実践（織田、1980、1981、1982、1983、1991、1993、1994）、すなわち、①学生による授業評価をとり入れた授業実践と②大福帳（受講カード）を取り入れた授業実践である。

II 「学生による授業評価」を取り入れた授業実践

2・1 学生による授業評価導入の試みとその効果

筆者は、三重大学教育学部における教師教育の現状、とくに学生が評価する教師教育の現状を明らかにする一連の調査（織田 1980、1981、1982）を行い、教師教育の改善点を指摘し、改善の必要性を指摘したが、その解決・改善は、教官が自主的、主体的に行うべきだという立場をとってきた。

筆者自身が担当する授業が学生にどのように受けとめられているかを明らかにし、今後どのように改善すべきかを検討するために「学生による授業評価」（昭和57年度後期、学期末試験、授業科目：教育心理学）の実施を試みた。これが筆者の行った「学生による授業評価」の最初

の試みであった。なお、喜多村（1981）によって紹介された項目を参考にして「学生による授業評価票」が作成された。

「学生による授業評価」（昭和57年度後期、回答者71名）から、次のような結果がえられた。

- ① 教材の構造化、配布印刷物の活用、レポートの速やかな返却など、教官自身の努力的側面に関して、比較的高い評価をえた。
- ② 受講生に対する配慮の欠如、学生を授業参加に促す努力不足（技量不足）、ユーモアと学生への親和的態度の欠如といった指導技量の不足が指摘された。

第2回目の「学生による授業評価」は、昭和58年度前期（学期末試験、回答者75名、授業科目：教育心理学）に行われた。表1は、昭和57年度後期と昭和58年度前期の「学生による授業評価」の結果（項目別肯定率％）で、図1は表1を図示したものである。

表1 「教育心理学」の学生による授業評価（昭和57、58年度、肯定率％）

学 生 に よ る 授 業 評 価 項 目	肯 定 率 %	
	昭57	昭58
1 教材を十分構造化している	87%	91%
2 説明は明快で理解しやすい	92	80
3 重要な教材を的確に指摘している	63	88
4 常に授業の準備をよくしている	97	98
5 担当教科について完全な知識を提示している	80	85
6 担当教科の最新の事例を呈示している	77	89
7 学生が独自に思考することを奨励する	63	85
8 授業に情熱を持っている	85	85
9 担当教科と関連教科との関連を明らかにしている	28	52
10 ユーモアのセンスを持ち合わせている	24	32
11 学生個々人の問題や感情に理解がある	24	51
12 休講がなく、時間も厳守する	86	84
13 学生を討論に参加させるよう努力している	25	79
14 印刷物を上手に活用している	87	67
15 黒板OHPの字は読みやすい	34	92
16 授業はよく聞き取れる	89	95
17 宿題（レポート）をすぐ返す	65	92
18 宿題には建設的で有効なコメントを加える	70	91
19 クラスのペースに授業をうまく合わせている	20	65
21 教室外でも学生との接触をいとわない	11	24
22 学生が意見表明することを奨めている	28	85
23 授業を実験・教育実習・教育実践等と関連づけようとしている	35	47

注1) 回答者数：昭和57年度71名、昭和58年度75名

注2) 評定尺度：昭和57年度5段階尺度、昭和58年度4段階尺度

注3) 肯定率とは「ハイ」または「ヤヤハイ」と回答したものの百分率である。

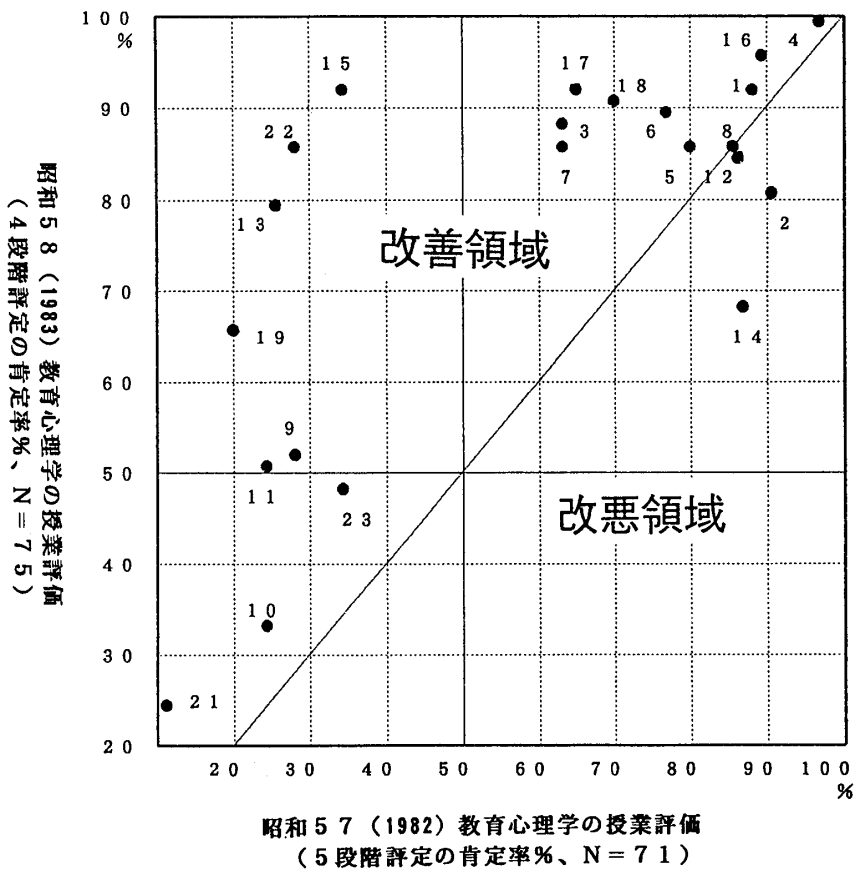


図1 昭和57と58年度の「学生による授業評価」の変化
(図中の番号は表1の項目をしめす)

表1と図1から、授業評価項目の2、12、14の3つの項目をのぞき、すべての項目において昭和57年度後期よりも昭和58年度前期の肯定率が高く、昭和58年度前期の講義は前年度に比べてかなり改善されたといえよう。特に、「13 学生を討論に参加させるよう努力している」、「15 黒板OHPの字は読みやすい」、「22 学生が意見表明することを奨めている」の3項目については、大きな肯定率の増加が認められる。一方、「10 ユーモアのセンスを持ち合わせている」と「21 教室外でも学生との接触をいとわない」は初年度同様に低く評定された。

ここに紹介した昭和57年度と昭和58年度の「学生による授業評価」の結果は、筆者に次のような自信と示唆を与えてくれた。

- ① 第1回目(昭和57後期)の「学生による授業評価」では、期末試験日の数日前に実施と評価項目が決定された。それ故、最初の「学生による授業評価」の結果は、筆者が従来から行ってきた「よりよい授業」を行うための努力に対して、比較的高く評価がされていることが確認でき、授業改善の意欲が一層高まったこと。
- ② 第2回目の「学生による授業評価」の実施は、学期はじめから授業実施計画に組み込まれていた。したがって、筆者の昭和58年度前期の重要な授業目標は「より高い評価を学生からうけること」であり、そのための授業内容の精選や教材の準備、教授法の工夫等が日常的に行われた。図2の授業改善領域に含まれる評価項目の多さは、こういった日常的な努力が受講生から認められたことを示すものである。学生は教師の教授行動の観察を通し

て、教師の授業改善の創意・工夫や努力を、正当に評価する。このことはごく当然のことであるが、この発見が筆者の今日までの授業改善の原動力となった。

2・2 「学生による授業評価」導入の意義と期待される効果

筆者の授業改善の原動力となった「学生による授業評価」の導入に対して、学生はどのように考えているだろうか。筆者が平成2年度と平成3年度に担当した講義「教育評価」を受講した学生のレポート「〈学生による授業評価〉の意義・効果について考察せよ」の分析結果を紹介する。なお、分析の対象となったレポート数は、81通である。

次に、「学生による授業評価」に対する学生のレポートを紹介する。

〈レポート#1〉未来の教育のために ～授業評価の洗礼を受けよう～

学習者によりよい授業を提供するために、授業担当者は授業評価の洗礼を受けるべきである。授業担当者にとって授業評価されるということは、不安であろう。つまりは、教師は、自分の授業に対して自信が無い。

〈レポート#2〉評価は一方通行でない

もともと授業評価は、授業を改善するために行なわれるものである。教師個人、学習者個人が、どうのというよりも、お互いが少しずつ歩み寄って、授業を良くすることができたか、ということで授業評価の価値が決められるのではないだろうか。今までの“評価＝一方通行”的なイメージを取り払い、教師側、学生側、そしてその相互関係にまで効果を与える評価の意義を忘れないでいたい。

〈レポート#3〉よりよい授業を常に追求するには

私が今までに経験してきた授業の中には、私が望んでいる理想の授業とはずいぶんかけ離れたものがあつた。しかし、それを授業担当者に伝えることは無謀に等しかった。「学生による授業評価」の導入は、授業担当者も、学習者もよりよい授業を追求する姿勢を形成・持続する効果を持つであろう。

〈レポート#4〉より魅力のある講義を作るには

大学の授業を受けるようになって、大学の授業とは、なんて没個性的なんだろうと思う。大学の教授ひとりひとりを見れば決して個性的でないひとはいないと思うのに、ひとたび講義となると皆個性を眠らせて、同じ様なつまらない講義をする。学生は、よい授業を受けたいなら、もっと積極的に授業改善を望んでよいと思う。

〈レポート#5〉学生による授業評価のマイナス効果

学生が授業を評価するよういう発想に対して、「その授業がよい授業であるかどうかを学生が疑っている」と教師から誤解されがちである。このような教師の不信感情は、教師と学生との信頼関係を破壊する恐れがある。授業評価にはプラスの効果も多いと思われるが、マイナスの効果の存在を忘れてはならない。新しい試みには、プラス効果に合わせてマイナスの効果も予測・検討した上で導入しなければならない。教師と学生との信頼関係の崩壊は、学生による授業評価に問題があるというよりも、現在の教師と学生との信頼関係や教育現場の雰囲気の問題があると思われる。学生の評価は、公平であろうか。人間は楽な方に流されやすい。授業評価能力に欠ける学生の評価結果は、授業を改善するための判断を誤らせる。

<レポート#6>授業評価が時代を作る？

授業評価はより高い質の授業を実践するためのものであり、学生にとっても重大なことであるといえよう。学生が日常的に行なっている「通る一通らない」といった授業評価ではなく、授業改善を目的にした授業評価は、直接学生自身にかかわる問題として無関心であってはならない。

<レポート#7>評価を行う授業には発展がある

学習者が授業を評価することは、教師・授業の質を高め、最終的には学習者の利益となって戻ってくる。教師は、学習者の存在があって初めて教師でありうるもので、学習者にとって良い教師にならなければいけない。そのためには、学習者の意見を聞く必要がある。

学生のレポートの分析から、「学生による授業評価」の導入には、次のような効果が期待できる。

① 学校教育の変革に期待される効果

- 学習者から授業担当者へのKR（フィードバック）効果
学生思いを授業担当者に伝える手段である
- 授業（教育）の公開性の促進効果（閉鎖性の打破効果）
授業評価は情報公開につながる
- 教育評価観の変革を促す効果
「教師は評価する人、学生は評価される人」という評価イメージの変革につながる
- 学問の自由、相互批判の実践と保証効果
授業評価は、学問の自由・相互批判を保証する具体的な実践である

② 教師に期待される効果

- 授業改善の支援効果（授業マンネリ化防止効果）
授業のマンネリ化防止と授業改善の努力を持続させる
- 自己点検・評価を支援する効果
客観的な教授行動の自己点検、自己反省ができる
学生の意見・要望、授業態度（本音）を知ることができる
授業の欠陥や学生の不満、授業改善の方向を知ることができる
- 教師の授業観、教育観の変革を支援する効果
閉鎖的な授業観、教師本位（教えてやる）の意識変革を促す

③ 学習者に期待される効果

- 受講態度の自己点検を支援する効果
積極的、真剣な授業参加意欲の増大と持続をうながす
評価することは、同時に自己の受講態度の自己点検・自己批判を促す
- 学問・研究態度の自己点検を支援する効果
学問に対する意識変革と成長をうながす
批判的精神の形成と学生としての責任感の自覚を促す

④ 教員をめざす者としての教育観形成を支援する効果

- 将来評価される側に立った授業や教師のあり方を考えるきっかけになる

⑤ 教師と学習者の両者に及ぼす効果

教師の授業改善努力が学生の授業参加欲を高める（相乗効果）

コミュニケーションの増大・活性化による信頼関係の形成と促進

相互批判精神の萌芽

授業の活性化・参加型授業の実践

教師（話す人）学生（聞く人）という一方的な関係の打破

以上のように、「学生による授業評価」の導入に対して学生は、きわめて好意的であること、また、その導入は大学における学問と研究をより活性化させる有効なものと考えられていることが明らかになった。

Ⅲ 「大福帳」を取り入れた授業実践

3・1 大福帳導入の目的

筆者は、1988年4月から受講カード（図2）を導入した。この受講カードを導入した背景には、次の理由があった。前述したように、筆者は、昭和57年度から「学生による授業評価」を学期末に実施し、授業改善のためのフィードバック情報として活用してきた。「学生による授業評価」を実施して得られ最大の収穫は、①学生は教師の教授行動の冷静で、鋭い観察者であること、②学生の授業評価から授業改善に有効な情報が得られること、③学期末に「学生による授業評価」の実施計画をもつことが、日常的な授業改善と工夫をうながす強い動機づけになること、などの発見である。また、1学期に1回の学生からのフィードバック情報の収集から、授業毎に継続的に受講生からのフィードバック情報が得られれば、より細やかな授業改善が可能になるであろう。こういった理由から、学期末に1度だけ行なう「学生による授業評価」の実施に加えて、授業毎に学生の授業に関する意見や要望を求める受講カードを導入した。教師と学習者との間の自由な相互批判を活性化し、授業・学習活動の充実をはかるという共通目標に向かって協力しあうための手段として、受講カードは有効であろうと考えた。なお、「授業・学習の充実」という「福」をもたらすカードであり、また、このカードが学生管理カード、すなわち、「閻魔帳」にならないようにという「戒め」と「期待」をこめて、「大福帳（Shuttle Card “DAIHUKU”）」と命名した。

3・2 大福帳の実践

大福帳を使った授業の流れは、次の通りである（図3）。

- ① 教師は前回の授業終了時に学生が記述した大福帳にコメントを朱書する。
- ② 毎授業の初めに大福帳を学生に返却する。
- ③ 授業終了の5分から10分前に、その日の授業に関する「授業内容・授業の進め方等に関する感想・要望」を大福帳に記入するよう指示する。
- ④ 授業の終了とともに大福帳の提出を求める。

この①～④の一連の手続きを1学期間実施する。

本報告は、1989年度後期「教育心理学」のレポート課題「大福帳の効果と問題点について述べよ」（受講生58名）の分析結果である。なお、1990年度前期「教育心理学」の学期末に行っ

甘過ぎず、柔らか過ぎず、授業のおいしい関係をめざす

大 福 帳 199 年度(前期 後期) A

講師:	授業:	曜 限	座席 A B C D E F G H
学校(専攻):		期(年)	番 氏名:
月/日	言いたいこと。聞きたいこと。なんでもあり、の伝言板。	おまけの伝言板	
No. 1 / ∴∴∴			
No. 2 / ∴∴∴			
No. 3 / ∴∴∴			
No. 4 / ∴∴∴			
No. 5 / ∴∴∴			
No. 6 / ∴∴∴			
No. 7 / ∴∴∴			

Shuttle Card "Daifuku" is designed by Prof. K. Oda, Faculty of Educ., Mie Univ., '91.10.10

図2 大福帳 (Shuttle Card) 見本

た調査では、「あなたは織田（筆者）担当の授業に今後とも大福帳を取り入れるべきだと思いますか」に対して全回答者(55名)から肯定的回答（「そう思う」または「ややそう思う」）が得られるなど、学生の大福帳に対する評価は高く、また、大福帳導入に対して好意的である。

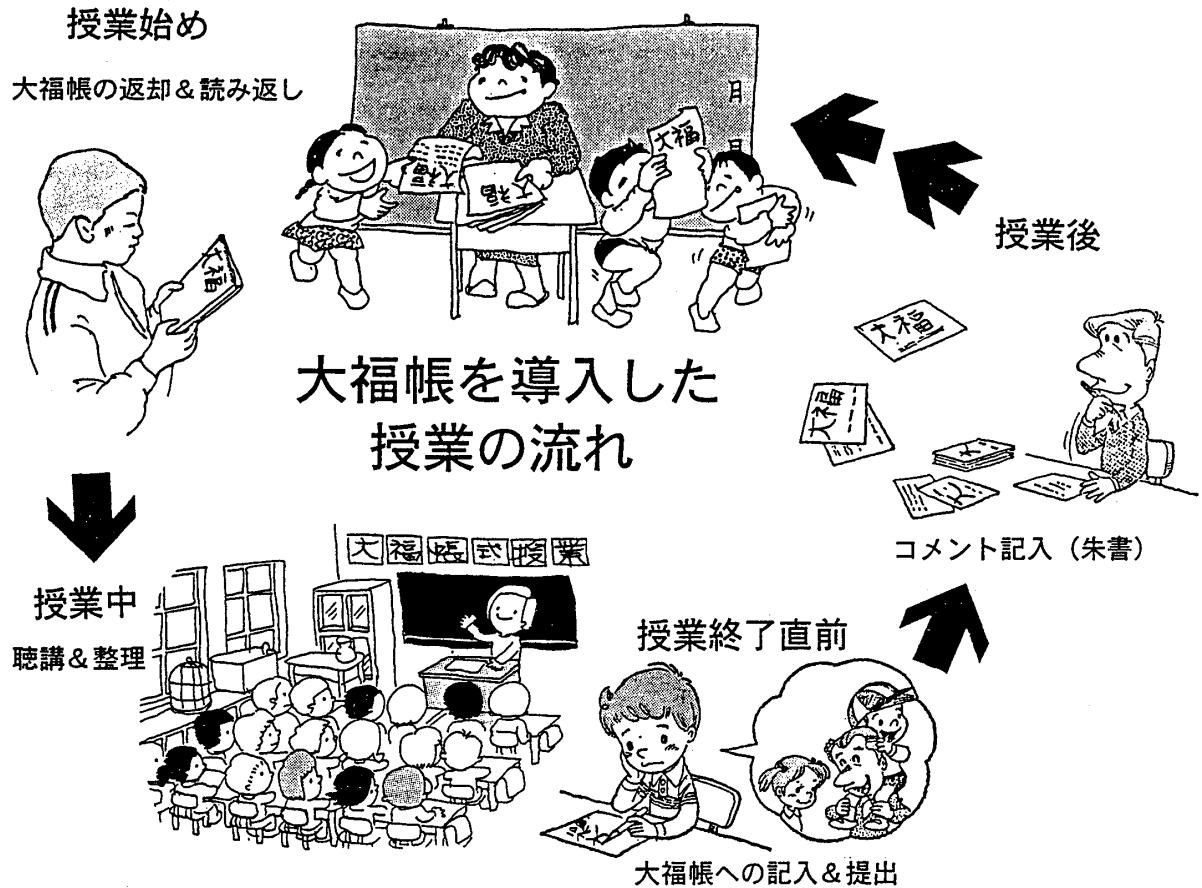


図3 大福帳を導入した授業の流れ

3・3 大福帳効果の分析

大福帳の導入によって、学生は授業に関する意見や感想を書かなければならないし、教師は朱書（1行程度）を入れなければならないという負担増はある。しかし、大福帳の導入には、次のような効果（“大福帳効果”）のあることが、学生のレポートの分析から分かった。

① 授業出席促進効果、または、欠席防止効果

授業ごとに黒く埋まっていく自由記述欄は、学習者自身の努力の結晶であり、それを授業毎に確認することは嬉しいことである。また、授業開始直後に返却される大福帳の教師コメント（朱書）は、受講生の努力や意見に対する教師からの「わたくしだけへのメッセージ」であり、それを読むことが受講生にとっては出席の1つ楽しみになる。このように大福帳は出席促進効果、または、欠席防止効果がある。なお、学生は、毎回、授業に対するコメントを書かなければならないことから、代筆防止効果もある。

- ・教師のコメントを見るのが楽しみで出席し、欠席が減少した
- ・大福帳があると代筆ができないから自分で出席しようという気持ちになる
- ・授業毎に大福帳の欄が埋まっていくのを見ると、講義に参加しているという実感があつた
- ・欠席すると大福帳の空白が妙に目立ち、なんだか責められているような気がした
- ・毎回自分に書かれたコメントをみていると、そう簡単に休めないという気持ちになった
- ・「大福帳を書かなければならない」という気持ちが、欠席という誘惑に打ち勝つことができた

② 積極的な受講態度の形成効果

学生は、毎回、その日の授業に関する感想や要望、疑問を書かなければならない。また、学生の記述に対して教師のコメントが次週にかえてくるから、いい加減な記述はできないという意識が生じ、積極的、まじめな受講態度が形成される。

- ・大福帳のおかげで、他の授業よりも気合いを入れて受講した
- ・大福帳があると無いとでは、受講態度や学習効果が違いだ
- ・教師からのコメントで励まされ、学習意欲も高まった
- ・教師がコメントを書ってくれるので、しっかりと授業の感想を書かなければという意識が働いた
- ・教師のコメントが影響して、授業の回を重ねるに連れて、大福帳が徐々に楽しみになった
- ・大福帳の存在で、自分も授業に参加していることを再認識でき、自主的に受講できた
- ・教師からコメントがもらえるため、いい加減な授業感想が書けず、授業に対する態度が変わった

③ 教師と学生との信頼関係の形成効果

学生の自由記述と教官のコメントは、授業や学問、ときには、教育観や人生観に対する姿勢や情熱を、相手に伝達し、教官と学生との相互理解を深め、信頼関係を成立させる。

- ・大福帳のいいところは、①短い文章でいい、②内容にこだわらない、③教師のコメントがもらえる、の3つだと思う

- 大福帳は学生と教官の話合い・討論の場であった
- 学生はピッチャー、教師はキャッチャー、そして大福帳はピッチャーとキャッチャーの間を往復するボールだ
- 授業で納得したり、疑問に思ったり、驚いたりしたとき、その気持ちを教師に大福帳で伝えることがきてよかった

④ 授業内容の理解と学習の定着促進効果

学生は授業の終わりに授業の感想等を文章化する過程で、授業内容の要点を整理・復習する。また、文章化することにより授業内容の構造化、より深い理解と学習の定着が生じる。更に、次週に教師のコメントを読み、また、先週の感想文を読み返すことにより、前回の授業内容や受講時に考えたことを思いだし（復習）、学習（記憶）の定着が促進される。

- 授業を聞いたとき、自分の意見や疑問をもつ機会を与えてくれた大福帳に感謝している
- 授業で納得したり、疑問に思ったり、驚いたりしたとき、その気持ちを教師に大福帳で伝えることがきてよかった
- 授業の終わりに感想等を書くことは授業の復習になるから、学習の定着も良くなる
- 大福帳に授業内容を書き、コメントをもらって読み、そしてもう1度授業内容について考える、この繰り返しで授業の印象がより強くなった
- 大福帳の最大の効果は、読んだだけでその時の授業風景がパット頭に浮かんでくることである
- 教師のコメントを読むことによって、1週間前の授業が自然に思い出され、授業内容の記憶定着に役立った

⑤ 自己努力・自己変容の過程の確認効果

学生の記述と教師のコメントが記入された大福帳は、学生自身の「受講の自己記録」、
「授業記録のカンヅメ」である。受講の自己記録である大福帳を読み返すことにより、学問的な自己成長を容易に確認できる。授業を通して生じた学問的な知識や認識の変化・増大や自己成長を大福帳という具体的な形で確認でき、自己努力や自己成長による充実感・満足感がえられ、また、それが学習意欲の向上をもたらす。

- 最初の頃は、大福帳に書くことがなく苦労した
- 短い時間に大福帳にまとまった文章を書くのはとても難しかった
- 大福帳への記入は、短時間に考えをまとめて書くためのよい訓練になった

⑥ 授業内容の充実促進する効果

一斉指導型の授業において、受講生との一対一の会話をしたり、授業内容・教授法等に対する受講生からの感想や批判を得る機会をもつことは容易でない。「ワクワクしながら教師のコメントを読んだ」、「大福帳のおかげで、教師を身近な存在として感じる事が出来た」、「大福帳は、教師と学生との密接距離をつくり、維持する役割を果たした」と学生は述懐しているが、筆者も大福帳の学生のコメントに励まされて、授業内容の精選、教授法の改善や配布資料の準備など、より楽しく、役立つ授業にするための努力と工夫を持続することが出来た。また、最終講義に記された次のような学生からのコメントは、更な

る授業改善の意欲を高める効果があるといえよう。

- 今日で、この大福帳を書くのが終わりと思うとなごり惜しいような気がします。
- 今日で、大福帳もおしまいです。いろいろコメント下さって、ありがとうございました。ごくろうさまでした。
- 今日で授業が終わりだと思うと、とても寂しい気がする。この授業はわたくしにとって大きな存在であり、見方や考え方が変わった部分も多々ありました。先生、本当にどうもありがとうございました。
- 最後に、この講義を通して、教師というプロフェッショナルな職業の責任の重さを感じました。それに何か、人間にとって大切なものは何か、常に原点に戻るような形で、考えさせられる講義で、大変興味深く思いました。……いろいろな意味で、今までの自分の考えをひっくり返したりするような発見の多い授業でした。

IV ま と め

「学生による授業評価」と「大福帳」は、学生からのフィードバック情報ではなく授業担当者の授業改善や授業評価をする学生自身に及ぼすさまざまな利点や効果のあることが判明した。とくに大福帳は、①実施法が簡単で、短時間に実施でき、②学生の負担が少ないが、③学生の授業への関心を高め、また、④教師と学生との信頼関係を形成し、⑤教師に対しては授業改善の意欲向上に役立つなどの利点がある。そして大福帳の最大の長所は、①大福帳の導入に対して学生が極めて好意的であること、および、②筆者（授業担当者）自身も学生からのコメントをもらうのが、授業を行なう励みであり、また、大きな楽しみであったことである。大福帳を授業に取り入れた筆者のこれまでの経験から、授業毎に学生によって大福帳に書かれる「授業内容、教授法や教師の行動に対する意見や感想」は、授業担当者に授業内容の充実や教授法の改善への意欲を高め、持続させる。

「授業はつまらない」と中学生、高校生そして大学生はいうが、そのつまらない授業の代表が教師の一方的な詰め込み式授業であろう。授業はつまらないという者の数は、中学校から高等学校へ、また、大学へと進むにつれて増大する傾向がある。「先生は話す人、学生は聞く人」といった授業における役割の分業化と固定化が学年進行とともに進み、たとえ聴くに値しない授業内容であっても、学生はそのことを意志表示することなく、じっと耐え、ただひたすら授業終了のベルを待っている。筆者にとって「学生による授業評価」や「大福帳」の導入は、受講者を受動的な存在としてではなく、能動的な学習者として位置づけ、授業への学生参加を通じて授業の活性化をはかろうとするものである。わが国における大学がかってのエリート教育機関から大衆教育機関へと変化している今、「楽しい授業」、「感動のある授業」、「学習者が主人公になる授業」など、「より魅力的な授業」を創造し、実践する社会的、職業的責任を授業担当者は負っている。「学生による授業評価」や「大福帳」といった授業に関する受講生からのフィードバック情報は、授業内容充実への緊張と努力を持続させ、また、授業改善の強力な原動力となるといえよう。

引用文献

- 喜多村和之 1981 講義(Lecture)の方法 --英米の教授法の研究から-- 現代高等教育 I D E No.216 pp11-23。
- 織田揮準 1980 教育実習に対する学生の態度 三重大学教育学部紀要 31巻4号 pp211-223。
- 織田揮準 1981 教育実習改善に関する研究 -三重大学教育学部教育実習調査報告- 三重大学教育工学センター広告 1号 pp47-59。
- 織田揮準 1982 教師教育の現状に対する学生の評価 三重大学教育工学センター報告 2号 pp69-82。
- 織田揮準 1983 学生による「教育心理学」授業評価 三重大学教育工学センター報告 3号 pp21-34。
- 織田揮準 1991 大福帳による授業改善の試み -大福帳効果の分析- 三重大学教育学部研究紀要第42巻(教育科学) pp165-174。
- 織田揮準 1993 大学の授業を斬る -学生の学生による授業評価票の作成と実施- 三重大学一般教育大学教育研究-三重大学授業研究交流誌- 創刊号pp11-17。
- 織田揮準 1994 平成5年度三重大学社会教育主事講習に対する受講生の意見・要望調査報告 三重大学教育実践研究指導センター紀要 第14号 pp59-71。

<付表> 「学生による授業評価」例

学生と教師の間で、授業は進化します。

学生による授業評価 (三重大織田式ODA94)

— 開発：三重大学教育学部教授 織田揮準 —

この調査は、「大学の授業をより魅力的なものにするためにはどうすればよいか」について検討するために開発されたものです。大学の授業が学生にどのように評価されているか、また、どのように改善すればより魅力的な授業になるか等、学生側から見たの授業改善に関する資料を収集するものです。

授業名：	() 学年	男	女	5 は	4 や	3 中	2 や	1 い	DK
評価日：1994年 () 月 () 日				い	は	間	い	い	せ
					い		え	え	ず

この授業は、または、授業担当者(教師)は、

< I : 授業充実因子 >

- | | | | | | | | |
|----|-----------------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 授業は、知的な刺激を受けるよい経験となった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 2 | この授業から多くのものを学んだ…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 3 | 引用された事例は授業内容に即して興味深かった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 4 | 教師の意見や行動に共感するものがあった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 5 | 進んで出席したくなる授業だった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 6 | 今日の教育問題を考えるきっかけとなった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 7 | 授業を充実させようとする努力や工夫があった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 8 | この授業をとるように友人・後輩にすすめたい…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 9 | 自分の知識や常識を覆すインパクトがあった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 10 | 情熱をもって授業をした…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |

< II : 学生参加因子 >

- | | | | | | | | |
|----|-----------------------------|---|---|---|---|---|----|
| 11 | 学生が独自に思考することを奨励した…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 12 | 教師は教室での討論を積極的にすすめた…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 13 | 教師は、学生の質問や意見などによく対応した…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 14 | 教師は学生の問題意識や感情に理解があった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 15 | 学生が参加する適度な作業が含まれていた…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 16 | 学生から何かを得ようとする態度が教師にあった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |

< III : 話術因子 >

- | | | | | | | | |
|----|---------------------------|---|---|---|---|---|----|
| 17 | ユーモアのある授業であった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 18 | 教師の雑談(脱線)は、有益で楽しかった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 19 | 声やジェスチャーの使い方が効果的であった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 20 | 授業は、よく聞き取れた…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |

< IV : 授業内容精選因子 >

- | | | | | | | | |
|----|---------------------------|---|---|---|---|---|----|
| 21 | 説明は明快で、理解し易かった…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 22 | 授業内容は、構造化され体系立てられていた…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 23 | 授業は、よく準備されていた…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 24 | 担当教科について、十分な知識を提供した…………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |

#この講義の特徴をよく表す項目を記入し、評定してください。

- | | | | | | | | |
|----|-------|---|---|---|---|---|----|
| 25 | …………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 26 | …………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |
| 27 | …………… | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | DK |